

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年2月)

1. 内政

(1) 第48回通常国会開会

15日, 第48回通常国会が開会した。2015年会期は2月15日から12月15日まで。上下両院における各党議席構成は次の通り。

ア 上院(計30議席+上院議長1議席)

FA: 16議席(センディック上院議長の議席含む)

国民党: 10議席

コロラド党: 4議席

独立党: 1議席

イ 下院(計99議席)

FA: 50議席

国民党: 32議席

コロラド党: 13議席

独立党: 3議席

人民同盟(Unidad Popular): 1議席

(2) 次期県知事選挙

5月10日に実施される県知事選挙に立候補するため現知事職を辞した者は次の通り。

ア ホセ・ルイス・ファレロ(サン・ホセ県・国民党)

イ ベルティル・ベントス(パイサンドゥ県・国民党)

ウ マルネ・オソリオ(リベラ県・コロラド党)

エ カルロス・エンシソ(フロリダ県・国民党)

オ ダルド・サンチェス(トレインタ・イトレス県・国民党)

カ セルヒオ・ボタナ(セロ・ラルゴ県・国民党)

キ アドリアナ・ペニャ(ラ・バジェハ県・国民党)

ク ヘルマン・コウティニョ(サルト県・コロラド党)

ケ パトリシア・アヤラ(アルティガス県・FA)

憲法の規定により, 県知事は連続再選1回まで可能であるが, 現職の知事が2期目を目指す場合は, 知事選挙実施の3ヶ月前までに辞職しなければならない。新知事の就任は7月10日。

(3) 大規模開発計画

ア 2日, 工業エネルギー鉱業省は, 法律第 19. 126号(通称「大規模鉱山法」)の改正案を議会に送付した。

イ 5日, 上院は同法の改正案を賛成多数により可決した。又10日, 下院で同法改

正案が可決された。

ウ 20日、大規模鉱山法の改正法第19. 318号が公布された。同改正法は、大規模鉱山法第24条が定める契約締結期限に係るもの。今次法改正により、ウルグアイ政府とインド・アラティリ社との鉄鉱山開発の契約締結は360日間延期可能となった(改正前は90日間)。

(4) ムヒカ大統領の任期満了

28日、ムヒカ大統領の任期が満了した。前日の27日、独立広場にて恒例の国旗降納式が行われた。式典にはムヒカ大統領、バスケス次期大統領、センディック次期副大統領、現閣僚、次期閣僚、国会議員等が出席した。式典で市民へのメッセージとして読み上げられた文書の中でムヒカ大統領は、任期中市民から寄せられた支持に感謝しつつ、自身の幼少期から現在までを振り返り、ウルグアイは幾多の困難に遭いつつも、より慎ましやかで、より共和主義的な国を目指してきたと述べた。またムヒカ大統領は、「連帯とエゴイズムを巡る闘いは倦むことなく続く終わりのないものであるが、残念なことに5年間は瞬く間に過ぎてしまった。もし再び生を受けたならば、二度目の生の全てを闘う人々の支援に捧げるであろう。自分は去りゆくのではない。人々の闘いのもとへ行くのである。闘う人々のいるところ、最後の一呼吸が尽きるまでどこへでも赴く所存である。」と述べた。

2. 外交

(1) 要人往来

ア 5～6日、アルマグロ外相がパラグアイを訪問し、カルテス大統領及びロイサガ外相と会談した。今次訪問により、2014年7月、ムヒカ大統領とカルテス大統領との間で署名された二国間協定に基づき、ウルグアイが建設を計画している深水港へのパラグアイの参加に係るハイレベル委員会、両国の持続的発展及び統合に係る高級レベルグループ(GAN)が正式に設置された。また UruguayXXI とパラグアイ商工省投資・輸出総局(Rediex)の協力協定及び人種・民族差別撤廃のための共同行動に係るメモランダムが署名された。更にアルマグロ外相は在パラグアイ・ウルグアイ大使館及びパラグアイ政府主催の三国同盟戦争(Guerra de Tríplice Alianza)記念行事に出席した。

イ 6日、ムヒカ大統領がブラジルを訪問した。今次訪問は、ブラジル労働者党(PT)結成35周年記念集会に招待されてのもの。ミナス・ジェライス州都ベロ・オリゾンテにて開催された同集会にはルセフ大統領、ルーラ元大統領、ピメンテル・ミナス・ジェライス州知事、ファルカオ PT 総裁、PT 所属国会議員をはじめ約2千人が出席した。ムヒカ大統領につきルセフ大統領は「ラテンアメリカ解放の理念のための闘士」と讃えた。ムヒカ大統領は演説でブラジル社会の変革に PT が果たした役割の大きさを強調した。

ウ 26日、モラレス・ボリビア大統領が当国を訪問、ムヒカ大統領と会談した。今次首脳会談において、鉱業科学技術の相互協力に関する補完協定、人種的・民族的差別の撤廃に関する補完協定、深水港開港後の一部港湾設備・区画のボリビアへの提供に関するメモランダム、ボリビアにおける衛生設備問題へのウルグアイからの支援に関するメモランダムへの署名が行われた。又ウルグアイ・ボリビア共同声明が発出された。

同日、両大統領はモンテビデオ県セロ地区所在の協同組合企業 Envidrio を視察した。又全国労働総同盟 (Pit-Cnt) 本部にて行われた労働組合との集會に出席した。モラレス大統領は演説で、ボリビアにおける労働組合の闘い及び先住民の権利承認を求める社会的闘いにつき演説し、かつて街頭を行進する権利すらなかった先住民運動が中央政府・議会の長を務めるまでになったと述べた。ムヒカ大統領は演説で、千年にわたる先住民文化が復興しつつあり、ウルグアイ人にとり異なる諸文化・多様なアイデンティティを共有することは良きことであると述べた。

エ 28日、ルセフ・ブラジル大統領が当国を訪問した。当国滞在中ルセフ大統領は、ムヒカ大統領とともに風力発電所 Artilleros (コロニア県22号線沿いに所在) の開所式に出席した。同発電所はウルグアイ電力公社 (UTE) 及びブラジル国営 Electrobras の共同所有で、アンデス開発公社/ラテンアメリカ開発銀行 (CAF) が1億ドルの投資を行っている。又開所式にて両国境地域における電力の相互供給に関する文書への署名が行われた。

同日、両大統領はウルグアイ大統領別邸にて、メルコスール加盟国共通自動車ナンバーの発表式に出席した。ウルグアイにおける新車向け共通ナンバーの導入は加盟国で最も早く本年3月より開始され、2016年1月以降は新車への取り付けが義務づけられる見込み。

(2) 対日関係

11日、宇都隆史外務政務官が当国を訪問し、ニン・ノボア次期外相及びポルト外務次官と会談した。会談では、日・ウルグアイ投資協定の署名を含む二国間経済関係の強化を確認するとともに、テロとの闘い、安保理改革などの国際的諸課題において両国が一層協力関係を構築することで一致した。

同日、宇都政務官はフリーゾーン「ソナ・アメリカ」に進出している日本企業の事務所等を訪問した。また、日系人・現地有識者との昼食会に出席した。

(3) 国際関係

18日、アルマグロ外相はワシントンの米州機構 (OAS) 本部にて次期 OAS 事務総長候補としてプレゼンテーションを行った。アルマグロ外相は OAS のこれまでの取り組みを振り返り、OAS は冷戦期の地域機関ではなく21世紀の地域機関へと脱皮しなくてはならないと述べた。また同外相は OAS の四つの柱として民主主義、人権、

総合的な発展、多面的安全保障を挙げ、今後も OAS は右戦略的ビジョンに基づいて活動していくと述べた。更に同外相は、2014年12月におけるキューバ・米関係再構築に係る宣言を称賛したうえで、加盟国の総意に基づくキューバの OAS 復帰が重要であると述べた。

3 社会

(1) 治安関係

ア ソリアノ県庁のホームページ乗っ取り

西サハラ自治州のハッカーが、ソリアノ県庁のホームページを乗っ取り、独立などを要求した動画が一時的に掲載された。同ホームページは大統領府のホームページと連動しており、侵入経緯を捜査中である。

イ 司法府における女性の活躍

ウルグアイにおいては、司法府に勤務する女性の65%が40歳以上の女性であり、女性が活躍する職場として期待される。さらに、アンケート調査会社による司法の信頼性に関する調査において、南北アメリカでウルグアイはカナダに次いで2番目に信頼度が高い。以下、コスタ・リカ、アメリカ合衆国、ベリーズと続き、最も司法に信頼がない国はパラグアイである。

ウ 警察による裁判官保護

刑事事件等を担当する裁判官に対し、身体等に危険を及ぼす恐れのあるケースについて、警察官が24時間・50人体制で保護するシステムが活用されており、現在8名の裁判官が警察により保護されている。

エ 偽造パスポートによる不法入出国

スペインからの通報により発覚した事実であるが、イスラエルの偽造パスポートを所持したシリア人がウルグアイへ入国し、約1週間滞在後、スペインへ入国した。その際、パスポートが偽造であることが判明、ウルグアイ当局へ通報があった。

オ 裁判ミスによる釈放

地方県裁判所において、裁判手続きミス等により、凶悪犯罪で少年院に収容されている年少者多数が釈放される見込みとなり、治安悪化が懸念される事態となった。

(2) その他

ア 6日、ウルグアイ作家協会施設の施設(カネロネス県アトランティダに所在)にて、「ダニエル・ビダル文庫建築コンクール」の入賞者が発表された。発表式にはムヒカ大統領、マルコス・カランプラ・カネロネス県知事、ダニエル・ビダル氏ほかが出席した。同コンクールは、人類学者ビダル氏が政府に寄贈した蔵書を収める「ダニエル・ビダル文庫」の建設に際し、建築家、建築技術者及び図書館学専門

家への一般公募として2014年11月より始まったもの。同文庫はカネロネス県サリナス市に建設予定で、ビダル氏の蔵書とともに詩人・エッセイストのアイデア・ビラリニョ氏の寄贈図書も収められる見込み。

- イ 9日付で大統領府は、ポルトガル政府より1816年から1828年間の歴史文書の寄贈を受けたと発表した。今次歴史文書の寄贈は、2007年9月に署名されたウルグアイ・ポルトガル防衛協力協定に基づくもの。1816～1828年は「シスプラティナの時代」と呼ばれ、この間バンダ・オリエンタル(ウルグアイ)はブラジルに併合されていた。寄贈された文書の9割は未公刊史料で、コンパクトディスクにデジタル化されている。

(了)